

大自然とお友達体験講座 2023 第2回講座レポート

第2回目の講座は6月25日(日)に大阪府豊能郡能勢町歌垣地区での開催です。

この日の受講生は13名。環境事業協会本社のビルの1階で集合して班分けの確認をした後、バスに乗り込みました。



そして現地の駐車スペースにバスを停車後、今回お世話になる歌垣 SATOYAMA 楽舎へ徒歩で移動しました。



代表の湯浅淳子さんのご挨拶の後、はじめに PowerPoint による、能勢町や活動地のご紹介がありました。湯浅さんは2017年にこの地に移住され、築250年にもなる古民家を維持管理されています。



座学で湯浅さんの自己紹介やここ能勢町の特徴、今回の保全活動地の主人公ともいえるキマダラルリツバメやハリブトシリアゲアリといった昆虫について学んだところで、午前中は農作業に必要な道具を分担して運び出し、近くの畑で作業開始です。ジャガイモの収穫などを予定していたものの、先月今月とイノシシによる獣害により畑が荒らされたとのことで、今回は近隣の農家さんの土

地も借りてそのお手伝いをするなど二手に分かれ別々の作業となりました。写真はお借りする畑の前で今回植える苗についての説明を受けている様子。



写真のように綺麗に植え付けられた苗には水を撒いて根を張らせます。



写真は支柱への紐結びの様子です。美味しい野菜に育ってくださいね♪



さて、もうひと班は違う畑に移動のため一旦地内に戻るも、無造作に置かれているシカの頭骨などに興味津々です。



こちらの畑に移動、黒豆の苗を植え付けます。バカ棒と呼ばれる所謂ものさしのような役割を果たす木の枝を使い、黒マルチシートに距離を測って穴をあけ、苗を植えていきます。



少し暑くなってきましたでしたが水分補給をしつつ談笑を交えながら楽しく作業ができました。こちらでも、植付け後は根を張らすため水を撒いて完了です。



農作業の途中、2つの班からそれぞれ1人ずつ、皆さんのお昼御飯を作る担当を選出して、母屋に戻って来てもらいました。お二人には羽釜での炊飯や付近の畑での野菜の採取(写真右はイタリア料理にも使われるサラダの材料ルッコラ採取の様子)や洗浄などをして貰いました。



2つの畑での作業が終わり、お互いがそれぞれでしていた作業を確認しに畑を移動し合いました。



下の写真はそれぞれの畑を確認している様子。



母屋前に戻ってきて食事の為のタープ設営の様子。皆で試行錯誤しながら設置しました。



さて、お待ちかねジビエ料理の食事タイムです！各自持ってきて頂いたマイ食器を使って、羽釜炊きご飯、鹿肉・猪肉のミンチ入りカレー、鹿焼き肉、採れたて野菜のサラダを取りに行きます☆



左の写真は鹿肉。赤身で飽きが来ないからバクバク食べられます☆
このお肉も、害獣駆除で捕獲された生きた鹿の解体からご準備頂いているものです。
受講生の皆さんは、解体の仕方などのお話を聞くことも出来ました。



右の写真は盛り付けの一例。
ドレッシングも自家製とのこと
とても美味しく頂きました♡



受講生の皆さんで円になったの昼食の様子♪

タープが日陰となり、ちょうどいい
広さでの集いの時間となりました。



昨年の講座でお世話になって訪れた時は雛でしたが、ニワトリや烏骨鶏もだいぶと大きく育ちました。小屋を開ければ周辺に出て歩き回りますが、最後は自分で小屋に戻る習性があるそうです。



講座内での話の流れから、折角なので薪割り体験を急遽お願いして、昼食後に受講生の皆さんに体験してもらいました。殆どの方が初めてだったので、いい経験になりました。



さて、全員の薪割り体験が終わったところで、15分程歩いたところであり、午後の活動の中心となる歌垣銀寄栗の森へ移動します。途中、木に纏わるこの地の歴史のお話が所々でありました。



府指定天然記念物の倉垣天満宮のイチヨウです。樹齢は400年程もあるそうで、皆さん巨木の姿に見入っておられました。



銀寄栗の森に到着です。荷物を降ろすため皆でブルーシートを広げました。



写真左の中央辺りからは、歌垣山からの地下水が湧水となって流れ出ており、そこを綺麗に管理・保全することで様々な水辺を利用する生きものが生息できるとのことで、オタマジャクシが出た後のモリアオガエルの卵の泡や、イモリ、トノサマガエルが複数観察されました。その他にもトンボの幼虫ヤゴなどが何種類かここには生息しているようです。



歌垣銀寄栗の森の説明が一通り終わると、場所を移動して隣の栗園にも行ってみました。

途中、鹿捕獲用の罠が林道の真横にあり、受講生は注意深く観察していました。矢印の先に踏むと締まる輪があり、ワイヤーが木の方に伸びていますが分かるでしょうか！？

隣の栗園はワラビ等のシダ植物が多かったです。昨年度より、全てにおいて植物の背丈が高くなっている印象を受けました



↑この辺りも殆どワラビです。



右の写真は移動中に見られたナナフシの若齢幼虫。写真の中央にいますよ！よく擬態しています。



さて、歌垣銀寄栗の森に戻り、整備作業開始です！
こちらは刈払いなどで枯れた雑草を集めている様子。



こちらは雑草を鎌で除草している様子。暑かったけど皆さんご苦労様です！



16 時頃からはキマダラルリツバメの飛行を期待して、栗の木や柿の木の樹上には受講生含めスタッフの視線が集まっていました。夕方にしか飛び立つ姿が見られないので、皆必死です。「ほら！あそこにいるよ！」湯浅さんの声で皆が集まりますが、なかなか枝葉に止まっている姿が見えません。流石にいつも見ている人と年間 1 回だけ見るスタッフや初めて見る受講生では感覚が違うようです。それでも、双眼鏡とコンパクトデジカメの組み合わせで、美しい姿…とまではいきませんがキマダラルリツバメの姿を以下のように写真に収めることに成功しました！



さて、今回午後の活動の途中で飲み物を口にするなど、何度もブルーシートに置いてある荷物に近寄るシーンがありましたが、何度も右の写真のマダニを目撃しました。総数で言うと 5 匹…。受講生の水筒にもへばりついている始末。ここはシカが多く生息している地区です。周囲は草しかなくても、そこに普段潜んでいてブルーシートの上に置いてある荷物についで人間の臭いに寄ってきたのかもしれない。カバンなどは手で掃ってから装着するよう、呼びかけました。



歌垣銀寄栗の森での活動が終わり、母屋のところに戻ってきたところで、テントを畳んでアンケート記入とその内容からのふり返しを行いました。

3 名程当てさせていただき感想をご発表頂きましたが、この地での活動について皆さんにご理解いただけたようで、良かったと思います。

最後に、湯浅さんと一緒に全体での記念写真です。



今回、天気予報からの予想より晴れて太陽がでてしまい熱中症が心配されましたが、無事終了する事が出来ました。

アンケートでは、受講生全員の参加満足度が最高評価の「満足した」と回答して頂きました。記述内容としては以下のようなものがありました。

- ・シカの被害を受けている場所と受けていない場所の大きな違いが分かり、害獣のえい響や対策をすることの大切さが分かりました。
- ・とても環境保全に興味が深まりました。いままで教科書や講義でしか知ることができなかった環境保全のことが、実際に本物に触れることでより具体的に知り、身近に感じることができました。
- ・畑作業や採れたての食材の料理を食べたり、キマダラルリツバメを観察できたりと、一度の講座で様々な貴重な体験ができたことが良かったです。
- ・環境保全活動をするには地道な活動が必要で、一朝一夕ではできることではないとわかった。地元の協力、ボランティアの協力も必要で、出来ることをしたいと思った。

以上のような回答が寄せられ、この保全活動地でのシンボル「キマダラルリツバメ」や、それを取り巻く里山ならではの環境を知ることでできた講座となり、更に、活動協力の意欲向上を伺える内容も見られたことから、活動地の今後が楽しみな結果となりました。